

第5回宇治市観光振興計画策定委員会 議事録

日時 令和5年2月6日(月) 15:00~16:45

場所 ゆめりあうじ4階 会議室1

出席者

委員長 坂上 英彦

委員 藤原 直樹

” 片山 明久

” 脇 博一

” 堀井 長太郎

” 後藤 英之

” 神居 文彰

” 荒木 将旭

” 佐脇 至

” 奥野 美奈子

” 西村 嘉高

オブザーバー 川崎 賢

” 松田 敏行

” 多田 重光

事務局

産業観光部部長 脇坂 英昭

産業観光部副部長 前田 聖子

産業観光部観光振興課課長 木田 陽子

産業観光部観光振興課副課長 山田 裕之

観光振興課観光企画係係長 辰己 義人

観光振興課観光企画係主任 西井 利治

資料

- ・ 第5回宇治市観光振興計画策定委員会 次第
- ・ 宇治市観光振興計画策定委員会 委員名簿
- ・ 第4回宇治市観光振興計画策定委員会 議事録
- ・ 「第2期宇治市観光振興計画（初案）」に対する市民の皆様からの意見募集結果について 資料1
- ・ パブリックコメントでの意見の内容とそれに対する本市の考え方 資料2
- ・ 第2期宇治市観光振興計画 最終案と初案（パブリックコメント時点）との比較 資料3
- ・ 第2期宇治市観光振興計画（最終案） 資料4
- ・ 今後のスケジュール 資料5

1. 開会

2. 議事

(1) パブリックコメントの結果について 資料1 資料2
事務局より資料1 資料2について説明

委員長：

市民から多くのご意見をいただき、意見に対する考え方について詳細な説明をいただいた。

それを受けて、意見や質問はあるか。

委員：

市民から計画に対する大変真摯なご意見をいただいた。

大阪・関西万博を視野に入れた意見もあり、宇治市へのアクセスについてユニークな意見もあった。

委員長：

宇治市民の観光に対する意識は非常に高い。

市民の意見に対して「修正なし」はあるが、意見内容が含まれているということによいと思う。

他に意見がないようなので、次第に従い進行する。

(2) 第2期宇治市観光振興計画（最終案）について 資料3 資料4
事務局より資料3 資料4について説明

委員長：

質問等はあるか。

これまで何度も議論を重ね、委員の意見を多く反映していただいたかと思う。さらに今回は市民の意見も反映させた形で取りまとめいただいている。

委員：

資料3の2ページに「淀川沿川自治体との連携」とあるが、現在検討されている舟運の実施については、宇治市だけではなく淀川沿川自治体との連携が重要であるので、この修正は大変有効である。

委員長：

最終案の方がより具体的なイメージが表現できていると感じている。

他に意見がなければ、次第に従い進行する。

(3) 今後のスケジュールについて 資料5
事務局より資料5について説明

委員長：

議事については以上であるがよろしいか。
それでは、「3.その他」へと進行する。

3.その他

(1) 今後の観光振興に向けて（意見交換）

委員長：

策定委員会は今回が最終となるので、これまで議論できなかったことなど、広い見地から意見を頂戴したい。

委員：

3ヶ月に渡って開催した萬福寺のランタンフェスティバルが1月31日をもって終了した。3ヶ月で来場者数1万人は京都市内のイベントからすると大変少ない数ではあるが、萬福寺としては多くの方がお越しくくださったと思っている。それも皆様方のご協力のおかげである。

前回開催した際は新型コロナウイルス感染症の影響や、中国のランタン職人のビザの問題などもあり、なかなか思うように進行できなかった。それらの反省を踏まえ、今後は綿密に計画を立て広報にも力を入れていきたい。広告宣伝については、京阪電鉄やJR、宇治市をはじめ観光協会にもご協力をいただいた。

今後は黄檗地区の活性化に向けて、まずは6月に全日本煎茶道連盟の全国大会にあわせて萬福寺で茶会を開催予定である。マルシェやキッチンカーなども呼び込んで盛り上げていきたいと考えている。

ただ、茶道は3席ついて7,500円と敷居が高く、イベントの来場者数が多くても、茶席に入ろうという人は少ない。家元方の考え方も年々柔軟になり、もっと茶道の裾野を広げることにはできないかという声があがっている。個人としては、各流派の茶席に入るのだけではなく、もっと気軽に茶道と触れあえる機会を創出していきたいと考えている。

委員：

ランタンフェスティバルの効果で黄檗山萬福寺のネームバリューも広がったのではないかと思う。6月に実施される茶会もにぎわうことを期待している。

策定委員会は今回が最終であるが、進行管理もこの委員会で行うのか。

事務局：

次年度以降は推進委員会を新たに立ち上げ、年1回進行管理を行っていく。

委員：

推進委員会もぜひ策定委員会と同じ委員で構成してもらいたい。

この計画で重要なのはアクションプランで、さらにその中に重点項目があり、今後、具体的な取組が実施されていくと思うが、重点項目でない取組についても関連して進めていくべきである。

霊源寺では戦国武将が食べていた朝食を実際に試食できるイベントが実施されている。源氏物語についても重点項目の中にあるので、例えば、紫式部は何を食べていたかといった企画を宇治橋通り商店街で実施するなどしてはどうか。

また、茶づなはよい施設であるにも関わらず、まだまだ知名度が低い。今から交通各社としっかり連携し、外から人を呼び込まないと大阪・関西万博という絶好の機会に間に合わない。

もう1点、大河ドラマのタイトルである「光る君へ」‘君’は紫式部のことを指しているのか。

源氏物語ミュージアム館長：

「光る君へ」というタイトルはおそらく今回のヒロインである紫式部が「光る君」へ向けて思い巡らせることではないか。一体「光る君」というのは誰のことかといった含みを視聴者の想像に委ねているのが、このタイトルの面白さではないかと考える。

委員：

PRの中心を紫式部なのか源氏物語なのかを明確にすべきではないか。しっかり目標を定めていかないといけない。

委員長：

アクションプランに関わる具体的なアイデアも重要である。大阪・関西万博に向けては先駆的な事業にも取り組んでいただきたい。

委員：

3点、意見を申し上げる。

1点目。資料4の27ページの「京都観光客の宇治への訪問率」の目標値が60%に設定されていることについて、資料2の2と14の意見にも関わってくるが、60%というのは結果値のことであると思っている。

京都市ではこれまでの数値目標の設定を取りやめている。

パブリックコメントを寄せた市民の方は結果値ということにされているのではないかと。60%という数値を受動的に設定することと、自分たちでどのくらい来てほしいというように能動的に設定することでは、意味が違って来る。

「広域」という言葉が計画ではっきりと明示されている中で、奈良や大阪からはどのくらいの人に来てもらうのか。大阪・関西万博以降、ビジネス客などの移動人口を定住人口にまで繋げることを考えたら、ワーケーションなどの取組にも今後監修していただきたい。

2点目。この秋、京都国立博物館と東京国立博物館で東福寺展が開催される。昨年はお茶の展覧会があり、その際は宇治のお茶マップ作成に協力した。イベントや観光に関わる人や機関の連携をもっと強力にし、ニッチなところで活動している人たちも含めて総括的に広報や発信をしていくことが必要ではないか。

3点目。パブリックコメントの意見では、観光によって自分たちの生活にマイナス面が発生するのではないかとといった懸念が見られるが、観光によって市民が宇治をより好きになること、市民一人ひとりが観光に関われることが重要である。すぐに実践できるようなことはたくさんあると思う。例えば市内の小中学生や大人たちに「宇治でしたい50のこと」や「宇治に来たら是非行ってほしい場所30」などを提案してもらい、市民が積極的に観光に関わることができる仕掛けをつくっておくことが必要ではないか。外からくる人と市民との関わりがより有機的に発展し成熟できるよう、計画に盛り込まれている以上、行政から具体的に実践していくようお願いしたい。

委員長：

3点目については、今回ワーキンググループを通して若い人の意見を聞く機会もあり、少しずつそういった動きが出始めているのではないかと思う。

1点目の数値目標については、今後も引き続き検討が必要である。京都市では観光客数ではなく満足度と感動度のアンケートを取られていて、量よりも質へと重点が置かれつつある。北海道でもリピート率の数値を追いかけている。今後は質に対する指標も重要になってくると思う。

委員：

京都市の観光客数が2015年にピークとなり、その後、少しずつ減少し始めたところから考え方を換えられたかと思う。

2点、意見を申し上げる。

1点目は、市民からの意見で、心配事の一つに交通の問題を挙げられている。いかにパークアンドライドを実践していくかにフォーカスが当てられていくと思うが、単なる駐車場という機能ではなく、そこで楽しめるような機能や新しい視点があってもいいと思う。そういったことから地域ビジネスを生み出していけると思う。

もう1点は、コロナ禍の3年間で、国際関係および観光関係を志望する学生が徐々に減少しつつある。一方、ポストコロナを視野に入れた地域の観光人材育成が急務である。

本大学でも地域や行政と協力して観光教育を実践的に進める方針が立てられ、宇治橋通り商店街と共に取組を始め、宇治市魅力発信事業にも協力させていただいている。大学としては、今後もより実践的な学びの機会を増やしていこうとしている。

委員長：

是非、宇治をフィールドに教育活動を実践していただきたい。

委員：

3点、意見を申し上げる。

1点目は、多岐に渡る分野を包摂し、また現段階の情報も含まれた漏れのない計画になっていると思うので、次は実行段階が課題である。行政のリーダーシップをもって、官民や広域自治体と連携し、強力に計画を推進されることを期待したい。

2点目は、計画を策定されたからには、内部資料だけにとどまらず、市民や官民連携の中で打ち出し、また、国に対しても地方創生交付金等の申請にアタックする資料として活用されてはどうか。そのためのポイントとなる広域自治体連携、官民連携、DX以上3点の要件をこの計画では全て含んでいると思う。

3点目は、見せ方やデザインは非常に重要であり、折角よい事業を生み出されたのであれば、関係人口になりそうなところを狙ってうまく伝えていく必要がある。

一風堂がホテルで5,000円のラーメンを提供したり、愛媛県大洲市では一泊100万円で天守閣に宿泊できるプランを打ち出したりなど様々な取組がなされている。話題作りになり、関心を持つきっかけとなる。宇治市でも観光のゲームを開発されるなど、柔軟な組織風土を活かして観光政策に取り組んでいただきたい。

最後、指標に関して最近ではシビックプライドやウェルビーイングなども重要視され、観光に関わっている人がどれだけ幸福かといったような指標も今後もしかすると検討されていくのではないかと思う。

委員長：

アップルは経営者トップ7名のうち2名がデザイナーで、デザインが経営をリードするといった考え方がされている。行政はデザインに対して非常に弱いので、民間企業に力を借りながら推進していくことが長期的な課題となってくる。

委員：

計画を実際に実行していくためには各所で然るべき予算を取る必要がある。

資料2の14にコロナ前のオーバーツーリズム時代には交通量の許容能力が超えていたという意見があるが、宇治橋通り商店街に関しては、コロナ禍の3年間で人通りが大きく減少し、どうにか以前のにぎわいを回復したいと思っているが、同時に安心・安全な道路も確保すべきである。警察署とも水面下で協議をしているが、改善には地域住民の同意が必要で

あり、また、周辺道路にも様々な影響が発生するので簡単にできることではないとのことであるが、警察署も観光の街にふさわしいように改善していきたいと考えている。

もう1点、資料4の19に茶づなの赤字といった手厳しい意見が寄せられているが、その回答として「宇治観光の拠点」と書かれているので、観光振興における委員会等に茶づな関係者にも入ってもらった方がよいのではないかと。

委員：

茶業会も年々変化してきており、今は生産者の方が独自に発信をされているのでそういった方の意見も今後は非常に重要となる。近年はスイーツブームであるが、宇治はお茶の味でおもてなししないと長続きしないのではないかと。

昨年、9年ぶりに宇治市で全国お茶まつりが開催されたが、以前と全く違うと感じた。それまでは茶業関係者中心のお祭りであったが、消費者の方が多く来場された。今後は、消費者目線に立ってお茶のことをもっと知ってもらえるような催しにすべきだと痛感した。

以前は敷居を下げる目的でお茶を無料接待で提供してきたが、最近は有料にしている。有料にしているからには本格的なお茶を提供し、質の高いお茶の味を知ってもらうことが重要である。八十八夜の茶摘みの集いも以前は無料だったところを有料に変更し、人数限定で開催したが、来場者の満足度が飛躍的に上がった。

最近は海外からの旅行者もたくさん来られているが、スイーツよりも本物のお茶を求められている方が多いのではないかと。

最後、行政にお願いしたいのは、以前から何か問題が起こったときには農林茶業課に掛け合うようになっているが、商工や観光の課にも関わってはもらえないかと。

また、宇治茶の普及とおもてなしの心の醸成に関する条例ができた当時は、お茶の開発やPRに力を入れられていたが、最近は何も動きがないので今後も力を入れてほしい。

委員長：

ビジネスや事業も新たなステージに変遷しているので、生産者や消費者の視点を今後、計画にどう反映させていくかも重要である。

委員：

これから計画をスタートする上で、前期アクションプランの期間内に想定以上のスピードと広がりをもって推進していけるかが肝となる。

そのためには個々の事業が縦割りにならないことが重要である。例えば、満足度やウェルビーイング、シビックプライド等について、どの部署においても同じ軸で指標を取り、それも市民にとってなるべく分かりやすい「楽しかった」「他の人にも伝えたい、自慢したい」といったことで計っていくとよい。

ビッグデータについては、むやみに取るのではなく視点を絞って取り続けていくことが重要だと思う。

委員：

京都府の広域観光を推進する立場として、計画にある広域的な観光については関係機関としっかり連携をとって進めていきたい。

2025年の大阪・関西万博を目指して、国内外の観光客をどこまで誘致できるかが重要となる。開催までの期間に観光資源のブラッシュアップも必要だが、事前に旅程を組まれるインバウンド客に向けての情報発信、また、国内観光客に向けてはリピートしてもらえるよう、パビリオンやブースでの魅力発信に力を入れていくべきである。そこで取り組んだことは万博閉幕以降も活きてくると思うので、是非とも宇治市がリードして京都府南部の自治体連携を強化してほしい。

委員：

京都府でも山城地域振興計画を策定し、観光入込客数と観光消費額の数値目標を掲げている。

大阪・関西万博の話があったが、万博からだけでなく関西国際空港から宇治へ、また、日本全国から宇治へ観光客を引っ張ってくるのが重要ではないか。

計画に産業観光や文化観光についても含まれているが、長期間滞在して学んでいただけるようなプログラムがあればいいと思う。京都は大学のまちでもあるので、今後、関係人口を増やす上で「学ぶ」という視点も重要であると考えます。

けいはんな学研都市も大阪・関西万博と産業技術という点で連携していけるのではないかと。

委員長：

本日、欠席の委員からも意見をいただいているので、事務局より発表していただく。

事務局：

委員から頂戴した意見を紹介する。

1点目。資料4の20ページの「市内周遊性の向上」については、駅や市内の観光資源を繋ぐ、新たな交通手段や環境配慮の社会実装に向けた、より具体的な計画策定や実証実験がはじまることを期待している。今夏には関西鉄道会社7社が参画した「(仮称)関西 MaaS アプリ」もリリース予定である。こういった新しいツールも積極的に活用しながら、観光客も市民も快適に移動ができ、環境・経済の両面で持続可能なシステムを検討・構築することが重要と考える。

2点目。資料4の23ページの「おもてなしのまちづくり」において、観光だけでなく宇治のまちづくりについても学ぶ機会を充実していくことも重要である。子どもが学ぶことは次世代の語り部を育成するだけでなく、両親・祖父母の世代が関心を持つ機会にもなりうる。良いことも悪いことも含め、観光とまちづくりへのリテラシーを高めていくことが重要

である。また、隣接自治体、淀川沿川自治体とも連携し、相互に地域資源を学び、体験する機会を増やせば、内容の充実も図れ、地産地消やマイクロツーリズムの観点からも有効であると考ええる。

以上、2点の意見を頂戴した。

坂上委員長：

是非、本日欠席の3名の委員からも後日、意見を頂戴したい。

委員：

(配布資料の説明)

委員：

「宇治茶の文化的景観を世界文化遺産に」というステッカーが配布されたのだが、どのように推進されるのか、萬福寺が協力できることがあればしていきたい。

歴史まちづくり推進課：

この事業については、京都府主導で南部の各市町村も協力して取り組んでいる。世界遺産の認定には、まず国の暫定リストに載る必要があり、そこから世界遺産の方に候補を出して、最終ユネスコの認定と登録を受けるという流れになっている。現状、暫定リストに載るべく取組を進めているところで、企画書案は国に提出済である。

委員長：

計5回にわたる委員会では、積極的な議論や真摯な意見をいただき感謝申し上げます。

以上をもって、第5回観光振興計画策定委員会を閉会する。

事務局：

長い期間、宇治市の観光のためにご尽力いただき感謝申し上げます。

計画は策定することが目的ではなく、きちんと実行し、実のあるものにしていかなければならない。

これまで様々な取組をしてきたが、コロナ禍を経て再度スタート地点に立ったと考えている。市民、事業者、関係機関としっかり連携して実行していくので、引き続きご指導いただきたい。